

たいにいい・ぼっくすつうしん

Vol.69

令和2年
12月14日

掃除屋やめて、そうじに期待する

“はやぶさ2”のカプセル回収が計画通り成功した報道を観ると、普段さほど宇宙に興味を示していないのに嬉しい気持ちになるのは相模原市に住むことで身近に感じるからでしょうか。今回の成果として何か新しい発見があるか分かりませんが、人が探求したり目標を持つココロは、いつか未来に繋がることでしょう。

今年の法人内でのトピックスは、諸事情により39期目にして創業時から事業としていた掃除屋（ビルメンテナンス事業）を終了するという決断をしたことです。学生時代にアルバイトとして半ば強制的にやらされた掃除屋の仕事はそんなに好きになれませんでした。児童通所支援事業を開始するにあたって、帰りの会の前に掃除の時間の活動プログラムを取り入れたのも、「生きるとは掃除をすること」と掲げてきた法人ならではの方針として、“らしい”のではないかと考えた経緯を思い起こします。

そんな想いを馳せるなか、毎月の定例会議で、思いもよらず「掃除の時間」の在り方について意見を交わすことになりました。掃除をしない傾向にある子どもたちにどのようにしたら掃除をしてもらえるようになるか、障がいの特性を考え、掃除箇所の当番を決めて構造化したり、「すごく綺麗になったよ!」と称賛したりします。SST（ソーシャルスキルトレーニング）で掃除をすることの大切さを話しますが、なかなか目的や動機と結びつきません。「そうじをしたくない!」の気持ちは、学生時代にアルバイトで掃除していた私が共感する部分でもあります。高学年になるほど、掃除の時間を如何に掃除をせずに過ごすか考える傾向がありますが、掃除をしない日はその子が頑張れなかった日ではありません。掃除をしなければならぬと決められた時間に向き合っている大切な時間なのです。重要なのは、自分自身と葛藤することで自己認知を深め、レジリエンスを育てるきっかけにして次に繋げることなのです。

“はやぶさ2”の成功報道の裏に、幾度も失敗や上手くいかなかったことがあったと思います。たとえ、掃除をしても、しなくても、「掃除の時間」は子どもたちにとって未来に繋がる時間になると強い意志を持って子どもたちに期待をしています。

たいにいい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております

応急手当・一次救命の研修をしました

毎年11月に外部講師を依頼して応急手当・一次救命講習を行っています。今年はコロナ禍により、外部の方をお招きしての研修会を中止することになりましたが、一次救命処置と気道異物除去の訓練は命を繋ぐために重要で、年に1度の実施は必要であるとの判断から、津久井やまゆり園より一次救命訓練用の人形と訓練用AEDを借用し実施しました。

救命の連鎖、「心停止の予防」「心停止の早期認知と通報」「一次救命処置」「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の四つの輪が途切れることなく素早くつながることで救命効果が高まります。日常的な心停止の予防に加え、早期発見と救命処置はその場に居合わせた“わたしの果たすべきこと”であると、全スタッフが学んだ日になりました。



1月の予定

冬季長期休暇計画書

参照

※毎月のおやつ作りは中止します

1月 休業日

1日 2日 3日
9日 10日 11日
16日 17日
23日 24日
30日 31日

